

浜の活力再生広域プラン
令和4～8年度
(第2期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	伊東・熱海広域水産業再生委員会
代表者名	会長 高田充朗 (いとう漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	伊東網代地区地域水産業再生委員会(いとう漁業協同組合) 大熱海漁業協同組合 初島漁業協同組合 静岡県 伊東市 熱海市 静岡県漁業協同組合連合会
オブザーバー	

※広域再生委員会の規約及び推進体制は別紙のとおり

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	静岡県伊東市全域 (いとう漁業協同組合の管内)、熱海市全域 (大熱海漁業協同組合及び初島漁業協同組合の管内) 定置漁業 (10 経営体)、まき網漁業 (1 経営体)、 一本つり漁業 (241 経営体)、刺網漁業 (50 経営体)、 採介藻漁業 (110 経営体)、ひき網漁業 (6 経営体)、 敷網漁業 (さば棒受網: 3 経営体) ※複数漁業を兼業
-------------------	--

2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

<p>伊東・熱海地域は伊豆半島東部に位置し、伊東市と熱海市にまたがっている。熱海市には静岡県唯一の有人離島である初島があり、相模湾を望む風光明媚な場所に位置している。本地域は神奈川県に隣接し、温泉地としても知られ、首都圏に近く利便性も良いことから多くの観光客が訪れている。</p> <p>地域内には、いとう漁業協同組合 (伊東市・熱海市)、大熱海漁業協同組合 (熱海市)、初島漁協 (熱海市) の3漁協が存在する。地域では、相模灘 (伊豆半島沿岸) と伊豆諸島海域を中心に</p>
--

定置網、まき網、一本つり、棒受網、刺網、採介藻漁業など様々な漁業が営まれ、サバやブリ、アジ、イカ、キンメダイ、イセエビといった多種多様な漁獲物が漁獲される。うち、いとう漁協では比較的大規模な漁業である定置網、まき網による水揚が多い。大熱海漁協は定置網、一本釣り漁業に加え、沿岸域でのイセエビ刺網や採貝藻漁業の水揚も多いほか、ワカメの養殖も行われている。初島漁協ではイセエビ刺網、採貝藻漁業が漁業の中心となっている。

水揚げされた新鮮な魚介類は地域の飲食店や民宿でも利用されるほか、加工品としても販売され観光資源の一つとなるなど、当地域において漁業は観光面でも重要な産業となっており、各漁協は水産物の販売に尽力している。特に、いとう漁協では伊東港に水揚げされる魚のうち、小型のサバ、シイラ、イサキ等の鮮魚価格が低い魚を「魚肉落とし身製造機（骨肉分離機）」を用いてすり身加工し、付加価値向上を実現した。加工されたすり身は調理材料として販売する他、はんぺん等の2次加工品の製造販売も行っている。これらの取組は「魚の国のしあわせプロジェクト」「Fish-1 グランプリ」等での受賞歴もあり、全国的に評価されている。大熱海漁協では、主要な漁獲物は県外の小田原市場に出荷されて評価されている他、養殖ワカメは主に地元飲食店等で消費される。初島漁協では、漁獲物の大半は飲食店や民宿へ供給され、島内で消費されている。また、イセエビ・サザエなどは漁協が買取り畜養、テングサは乾燥品とし観光客へ土産物として供給しており、島の大きな収入源となっている。

しかし一方で、さかな離れ等による魚介類消費の低迷、また高水温や藻食性魚介類の影響による磯焼け、イルカやサメ類の食害による水揚げ量減少などの要因で漁業所得が減少しており、燃油や漁業資材の高騰によるコストの増大も経営を圧迫している。さらに、高齢化や後継者不足がより漁家経営を厳しい状況に追い込んでおり、地域の漁業に関する課題は多い。

このような課題を解決するべく、地域内3漁協および漁業者は、さまざまな取組を行っている。いとう漁協では、水産物の流通コストの削減、多様化・高度化する需要のニーズに対応するため、平成24年12月に網代魚市場を廃止し、伊東魚市場と統合した。さらに県内大手量販店と直接取引を行うなど、鮮魚の流通改革にも取り組んでいる。熱海市の定置網漁業者は、首都圏での鮮魚販売、また入網した低利用魚(サバやワカシ)の短期畜養やサクラマスの養殖など販売力の強化に向けた取組を行っている。これらの取組を、広域再生委員会による3漁協連携により地域全体に広げていき、漁業収入を向上させる必要がある。また、地域内漁業者は、藻場の保全や資源の維持・回復の取組、密漁防止対策、種苗放流や魚礁の設置など資源増殖の増大に努めている。定期休漁の実施や、クロマグロ混獲回避や食害生物の駆除等を行い、適切な資源管理・地域水産物の安定供給を図っている。これらの取組についても、広域再生委員会内での連携でより広がりのある取組としていき、漁業資源の安定化につなげる必要がある。

(2) その他の関連する現状等

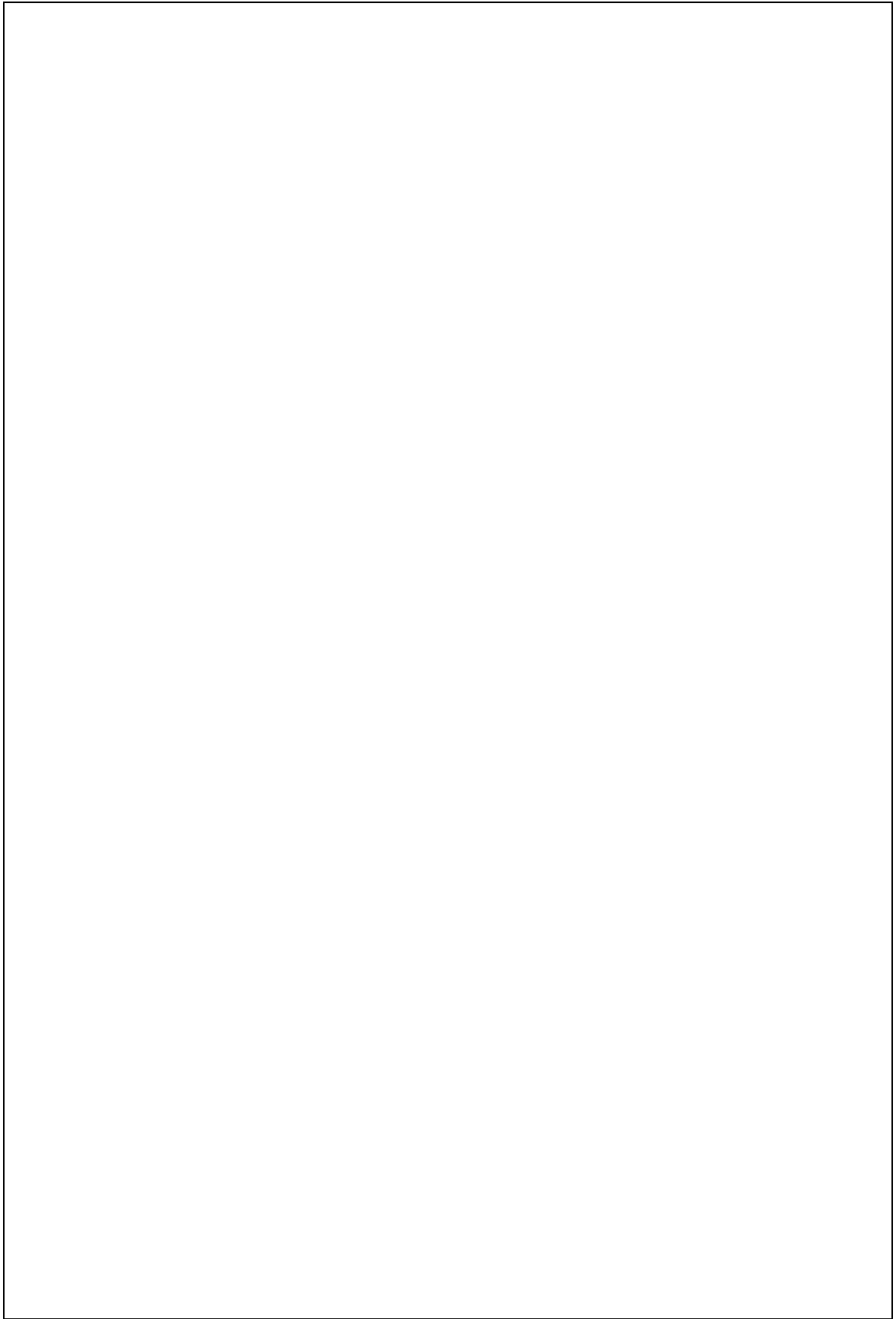
県内の代表的な温泉地である伊東市、熱海市には古くから県内だけでなく、関東圏からの観光客が多く訪れる。また、伊東港の目の前を通る国道135号線は東伊豆、下田へ向かう多くの観光客が活用するルートであり、これらの来訪客を長く伊東市・熱海市に留まらせることにより、地

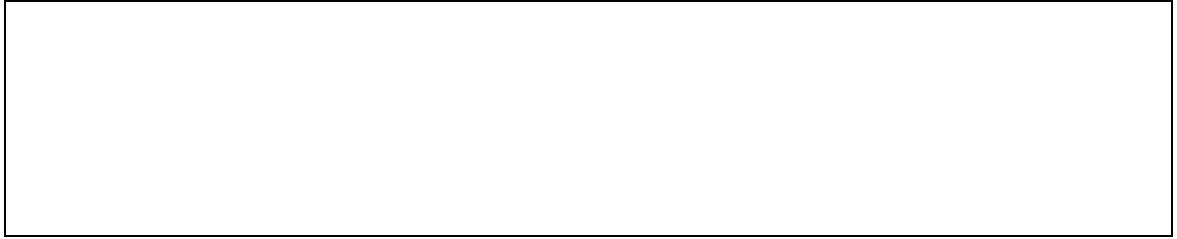
域の活性化を図る必要がある。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

①前期の浜の活力再生広域プランの評価(成果及び課題等)





②今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

現在、当地域では、水産資源減少や食害被害（サメ・イルカ等によるキンメダイ等の食害）による水揚量の減少が慢性的な課題となっており、漁協、漁業者は厳しい経営状況にある。そこで今期プランでは「限られた資源の有効活用」を基本方針とし、下記取組により当地域における漁業の経営安定、活力向上を図ることとした。

○操業効率化

- ・ 当地域の定置網数ヶ統では、操業効率化を目指した取り組みに着手している。網代（熱海地区）、富戸（伊東地区）ではユビキタス魚探（タブレット端末等でいつでもどこでも定置網内の魚群の有無等が分かる機器）を試験的に導入している（製網会社や大学と連携）。ユビキタス魚探を活用することで、出漁前に必要な量の氷を用意したり（現場で氷が足りない、多すぎるといったトラブルを減らせる）、網内の魚群反応が多い時間に出漁するといった、操業の効率化が可能になる。今期プランでは、既に先進機器を導入している定置網漁業者が、その活用方法を他地区の定置網にも普及する。
- ・ 一本つり漁業では、漁業者が新たに開始した食害防止対策での連携を図る。前期で実施した試験により一定の効果が見られた伊東地区の煙火によるイルカの追い払い、初島地区のサメ肉（忌避効果）によるサメ類の追い払いについて、効果のあった方法を参考に、有効な使用方法についてマニュアル化するため、漁協は知見を蓄積する。蓄積された技術を相互に供与することで、地域全体に有効な食害防止対策を普及する。

○水産物の高付加価値化・流通活性化

- ・ 伊東魚市場には製氷・貯氷庫が2棟あるが、老朽化の進行およびフロンR22が将来的に入手・使用できなくなることから、伊東地区では新たな製氷・貯氷庫の施設整備に着手する。これにより、将来にわたり安定した伊東・熱海地域全体の水産物の受入れ基盤（氷の供給体制の維持、水揚物の保冷等）を確保する。
- ・ 伊東地区では、一部の定置網漁業者、一本つり漁業者、刺網漁業者が脱血や神経締めといった漁獲物の高鮮度処理を実施しているが、まだ全体には広まっていないため、講習会等を活用した技術普及を図る。また、定置網における漁獲時の工夫として、イカ類は魚類とは別に取り上げ、身質の劣化を防ぐ取組を行っている。漁獲物の取り扱いに関するこれらの改善・工夫を地域全体に拡大し、高鮮度処理漁獲物の取扱量を増加させることで、水揚される魚介類の品質向上を図る。いとう漁協・大熱海漁協・初島漁協は、取組で向上した魚介類の品質をPRして取引単価向上を図り、水揚量が少なくても収益を確保できる体制を整える。

○地域水産物の情報発信と魚食普及・食育活動及び販売力の強化

・いとう漁協が商工会等と連携して実施してきた「伊豆・いとう地魚王国」による水産物の PR や販売促進イベントを、伊東・熱海地域全体に拡大していく。

・水産物販売促進において、以下のとおり、地域全体の連携体制を構築する。

① 3 漁協それぞれが運営する直売所において他地区の水産物を相互に取り扱う、1 つのネット販売で 3 漁協の水産物を取り扱う等、地域内の連携による新たな流通体制の確立を図る。

② 3 漁協の連携により、いとう漁協が開発したすり身・切り身を伊東市内だけでなく地域全体の学校給食・高齢者施や飲食店へ PR し販売していく。

③ 低利用魚を中心に、一次加工及び二次加工用に買い支えを行い、魚価の向上ができる体制を地域全体で構築する。

○水産物の安定供給に向けた水産資源の管理・保護

前期プランに引き続き、定置網漁業者はクロマグロの混獲回避や混獲時の放流効率化に取り組み、一本釣り漁業者はキンメダイの資源管理（小型魚放流、夜間操業禁止等）を進めて水産資源の管理・保護を図る。また、各地区の漁協、漁業者は密漁防止のための巡視や、粗朶設置、種苗放流などによる資源回復、および水揚量の増大を図る。

(2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

①前期の浜の活力再生広域プランの評価(成果及び課題等)

②今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

漁業経営セーフティネット構築事業による漁家経営の安定化、漁船リース事業・機器等導入事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業などの活用を推進し、生産力の向上やコスト競争に耐えうる操業体制の確立を目指す。当地域における意欲ある漁業者を中核的担い手として選定し、漁業後継者の育成に努め、技術の向上、資源保護等の取組みを行い地域の漁業の維持・発展を図る。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業 <p>資源管理計画による、定期休漁を実施 くろまぐろ静岡県計画の遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まき網漁業 <p>資源管理計画による、定期休漁を実施・TACによる漁獲管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一本つり漁業 <p>資源管理計画による、定期休漁を実施（キンメダイ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刺網漁業 <p>休漁日の設定・共同漁業権行使規則により制限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採介藻漁業 <p>休漁日の設定・共同漁業権行使規則により制限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷網漁業 <p>TACによる漁獲管理（棒受網・さばすくい網）</p>

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（令和4年度）

取組内容	<p>○操業効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域全体の定置網漁業の操業効率化を図るため、既にユビキタス魚探を導入している網代、富戸の定置網漁業者はその活用方法について、他の定置網漁業者にも提供できるマニュアル化を行う。 ・一本つり漁業(キンメダイ立縄)において、漁業者が実施しているイルカ・サメ類による食害防止の取組について、地区間での共有を図る。煙火によるイルカの追い払い（伊東地区）、サメ肉（忌避効果）によるサメ類の追い払い（初島地区）について漁業者がそれぞれの方法を実施し、他地区に提供できる情報を収集する。 <p>○水産物の高付加価値化・流通活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協は、伊東魚市場の製氷・貯氷庫の施設整備について、地域全体の水産物受け入れ基盤とするための基本構想を策定する。 ・漁獲物の脱血や神経締め、定置網におけるイカ類の取扱いについて先進的な取組を行っているいとう地区漁業者は、地域全体の漁業者に共有できる技術情報をいとう漁協に提供する。いとう漁協は、情報共有のため、これらの手法の普及実態及び魚価向上効果を把握する。 <p>○地域水産物の情報発信と魚食普及・食育活動及び販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう・大熱海・初島漁協とそれらの漁業者は、「伊豆・いとう地魚王国」や伊東市・熱海市の商工会、観光協会と共同で、伊東・熱海地域全域で水産物のPRや消費拡大、水産教室や料理教室による地産地消の取組を実施する。 ・いとう・大熱海・初島漁協とそれらの漁業者は、3漁協それぞれが持つ直
------	--

	<p>売所での水産物の相互販売開始について協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう・大熱海・初島漁協とそれらの漁業者は、地域内水産物のネット販売体制構築をめざす。既に漁協独自の EC サイトを持ついとう漁協のシステム活用を前提とし、いとう漁協は動画配信サービス上で販売する水産物について PR する動画を投稿し、それと連動したネット販売を試験実施する。大熱海漁協、初島漁協および両地区の漁業者は、ネット販売用に地区水産物を出荷することを検討する。 ・いとう漁協が開発したサバすり身製品を、地域全体の魚食普及に活用する。1年目はいとう漁協が大熱海漁協、初島漁協職員と所属漁業者向けにサバすり身の説明会・試食会を開催し、サバすり身の活用のため意識の共通化を図る。 ・いとう・大熱海・初島漁協は、低利用魚の活用促進を協力して推進する。いとう漁協が開発したサバすり身を、熱海市内の加工業者や飲食店への販路を開拓するため、3漁協が協議を行う。3漁協の漁業者が漁獲するキンメダイについては、漁協が干物加工原料として買い付け、3漁協全ての直売所で干物を取り扱って買い支える体制を構築する。1年目は、いとう漁協が先行して地区漁業者が漁獲したキンメダイの加工用買い付けを開始する。 <p>○水産物の安定供給に向けた水産資源の管理・保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業の安定的な操業の実施のため、伊東市・熱海市の定置網漁業者は、クロマグロの入網時には混獲を回避するため放流を行うなど適切な資源管理を行う。 ・いとう・大熱海・初島漁協とそれらの漁業者は、県水産・海洋技術研究所等の指導のもと、漁業者等が食害生物の駆除を実施し、粗朶魚礁設置、マダイ、アワビ等の種苗放流、イセエビについて満月の前後の自主休漁や小型エビの再放流を地域全体で行い、稚魚、貝、エビ類の資源を保護する。 ・いとう・大熱海・初島漁協の漁業者等は磯焼け被害を受けた藻場の再生のための対策を検討し、カジメ等の移植を合同で実施する。 <p>○中核的担い手の育成に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協及びそれらの漁業者は、漁業経営セーフティーネット構築事業による漁家経営の安定化、漁船リース事業・機器等導入事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業などの活用を推進し、漁業者の生産力の向上やコスト競争に耐えうる操業体制の確立を目指す。 ・伊東・熱海広域再生委員会は、当地域における意欲ある漁業者を中核的担い手として認定し、地域の漁業の維持・発展を図るため、地区水産業に関する研修会や若手漁業者への技術伝承会などを開催して漁業後継者の育成に努め、技術の向上、資源保護等の取組を行う。
--	---

活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業 ・クロマグロ混獲回避活動支援のうち混獲回避取組支援事業 ・水産業競争力強化漁船導入支援事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ・水産業共同施設整備事業 ・水産イノベーション対策推進事業 ・水産業活性化プラン具体化等支援のための専門家派遣事業 ・資源増大推進普及事業
-----------	--

2年目（令和5年度）

取組内容	<p>○操業効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協と既にユビキタス魚探を導入している定置網漁業者は、他の定置網漁業者向けにユビキタス魚探活用の講習会を実施する。 ・一本つり漁業(キンメダイ立縄)における食害対策において、煙火によるイルカの追い払い（伊東地区）、サメ肉（忌避効果）によるサメ類の追い払い（初島地区）を実施している漁業者は、引き続き相互に提供できる技術情報の収集に努める。いとう漁協・初島漁協は、食害対策法のマニュアル作成を検討する。 <p>○水産物の高付加価値化・流通活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協は、伊東魚市場の製氷・貯氷庫の施設整備の基本設計を行う。 ・いとう漁協、及び漁獲物の脱血や神経締め等の取組を行っている漁業者は、大熱海漁協、初島漁協と協力し、伊東・熱海地域全域で技術普及のための講習会を実施する。 <p>○地域水産物の情報発信と魚食普及・食育活動及び販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、引き続き「伊豆・いとう地魚王国」や伊東市・熱海市の商工会、観光協会と共同で、伊東・熱海地域全体で水産物のPRや消費拡大、水産教室や料理教室による地産地消の取組を実施する。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、それぞれの漁協で水揚げされた水産物の直売所における相互販売を試験的に開始する。 ・いとう・大熱海・初島漁協とそれらの漁業者は、地域内水産物のネット販売体制構築をめざす取組を継続する。いとう漁協は、動画配信サービスを活用したネット通販のシステムを確立し、運用を開始する。また、大熱海地区、初島地区の水産物をネット販売に導入できるよう、大熱海漁協、初島漁協およびその漁業者と協議を行う。
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協は、静岡県教育委員会とも協力し、熱海市内の学校にサバすり身を紹介するための説明会を開催する。3漁協の漁業者は熱海市内の学校でサバに関する水産教室を開催し、魚食への意識形成を図る。 ・いとう・大熱海・初島漁協は、低利用魚の活用促進を協力して推進する。いとう漁協が開発したサバすり身を、熱海市内の加工業者や飲食店への販路を開拓するため、伊東市内での活用事例を紹介する業者向けパンフレットを3漁協が合同で作成する。キンメダイについては、干物用の買い付けをいとう漁協直売所や干物店などで干物等に加工し販売できるよう買い付けを行うことで、買い支えにより魚価が極端に下がることを防ぎ、魚価の向上につなげる。 ○水産物の安定供給に向けた水産資源の管理・保護 <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業の安定的な操業の実施のため、定置網漁業者は、クロマグロの入網時には混獲を回避するため放流を行うなど適切な資源管理を行う。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、県水産・海洋技術研究所等と連携し、漁業者等が食害生物の駆除を実施し、粗朶魚礁設置、マダイ、アワビ等の種苗放流、イセエビについて満月の前後の自主休漁や小型エビの再放流を引き続き行い、稚魚、貝、エビ類の資源を保護する。 ・いとう・大熱海・初島漁協の所属漁業者等は磯焼け被害を受けた藻場の再生のための対策を検討し、カジメ等の移植を合同で実施する。 ○中核的担い手の育成に関する取組 <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協及び漁業者は、漁業経営セーフティネット構築事業による漁家経営の安定化、漁船リース事業・機器等導入事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業などの活用を推進し、漁業者の生産力の向上やコスト競争に耐えうる操業体制の確立を目指す。 ・伊東・熱海広域水産業再生委員会は、当地域における意欲ある漁業者を中核的担い手として選定し、地域の漁業の維持・発展を図るため、地区水産業に関する研修会や若手漁業者への技術伝承会などを開催して漁業後継者の育成に努め、技術の向上、資源保護等の取組みを行う。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業 ・クロマグロ混獲回避活動支援のうち混獲回避取組支援事業 ・水産業競争力強化漁船導入支援事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ・水産業共同施設整備事業 ・水産イノベーション対策推進事業

	<ul style="list-style-type: none"> ・水産業活性化プラン具体化等支援のための専門家派遣事業 ・資源増大推進普及事業
--	--

3年目（令和6年度）

取組内容	<p>○操業効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協と既にユビキタス魚探を導入している定置網漁業者は、他の定置網漁業者向けにユビキタス魚探活用の講習会を継続する。 ・一本釣り漁業(キンメダイ立縄)での食害対策について、伊東地区、初島地区の漁業者が、過去2年で蓄積した手法について意見交換会を実施する。いとう漁協・初島漁協は食害対策法のマニュアルを完成させる。 <p>○水産物の高付加価値化・流通活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊東魚市場の製氷・貯氷庫の施設整備の詳細設計を行う。 ・いとう漁協、及び漁獲物の脱血や神経締め等の取組を行っている漁業者は、大熱海漁協、初島漁協と協力し、伊東・熱海地域全域で技術普及のための講習会を2年目に引き続き実施する。 ・○地域水産物の情報発信と魚食普及・食育活動及び販売力の強化 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、引き続き「伊豆・いとう地魚王国」や伊東市・熱海市の商工会や観光協会と共同で、伊東・熱海地域全体で水産物のPRや消費拡大、水産教室や料理教室による地産地消の取組を実施する。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、前年度に実施した直売所での水産物相互販売について意見交換を実施し、課題を抽出して本格的な実施を検討する。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、3漁協の水産物を同時に取り扱うネット通販を本格的に実施する。3漁協の漁業者は、いとう漁協にネット通販用の水産物を出荷し、いとう漁業が運用を担当する。よりよい運用に向け、いとう・大熱海・初島漁協及びその漁業者により意見交換会を定期的で開催する。 ・いとう・大熱海・初島漁協は、熱海市内の学校にサバすり身の納入を開始する。漁業者による学校での水産教室を継続する。 <p>キンメダイについては、いとう漁協直売所や干物店などで干物等に加工し販売できるよう買い付けを行うことで、買い支えにより魚価が極端に下がることを防ぎ、魚価の向上につなげる。直売所では、他地区の水産物の取り扱いを開始する。</p> <p>○水産物の安定供給に向けた水産資源の管理・保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業の安定的な操業の実施のため、定置網漁業者は、クロマグロの
------	---

	<p>入網時には混獲を回避するため放流を行うなど適切な資源管理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、県水産・海洋技術研究所等と連携し、漁業者等が食害生物の駆除を実施し、粗朶魚礁設置、マダイ、アワビ等の種苗放流、イセエビについて満月の前後の自主休漁や小型エビの再放流を引き続き行い、稚魚、貝、エビ類の資源を保護する。 ・いとう・大熱海・初島漁協の所属漁業者等は 2 年目までに実施したカジメ等の移植の成果を検証して、必要に応じて方法の見直しを行い、まだ磯焼けの状態にある海域への移植を合同で実施する。 <p>○中核的担い手の育成に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協及び漁業者は、漁業経営セーフティーネット構築事業による漁家経営の安定化、漁船リース事業・機器等導入事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業などの活用を推進し、漁業者の生産力の向上やコスト競争に耐えうる操業体制の確立を目指す。 ・伊東・熱海広域水産業再生委員会は、当地域における意欲ある漁業者を中核的担い手として選定し、地域の漁業の維持・発展を図るため、地区水産業に関する研修会や若手漁業者への技術伝承会などを開催して漁業後継者の育成に努め、技術の向上、資源保護等の取組みを行う。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業 ・クロマグロ混獲回避活動支援のうち混獲回避取組支援事業 ・水産業競争力強化漁船導入支援事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ・水産業共同施設整備事業 ・水産イノベーション対策推進事業 ・水産業活性化プラン具体化等支援のための専門家派遣事業 ・水産物販売促進緊急対策事業 ・資源増大推進普及事業 ・水産業競争力強化緊急施設整備事業

4年目（令和7年度）

取組内容	<p>○操業効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユビキタス魚探未導入の定置網経営体は、前年度までの講習会等の結果を踏まえ、ユビキタス魚探の新規導入を進める。いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協は、導入に必要なメーカー情報等の提供や競争力強化型機器等導入緊急対策事業等の活用支援を実施する。 ・一本つり漁業(キンメダイ立縄)における食害対策において、伊東地区、初島
------	---

	<p>地区の漁業者は、それぞれが検討した対策手法について、相互に他地区向け講習会を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇水産物の高付加価値化・流通活性化 ・いとう漁協は、伊東魚市場の製氷・貯氷庫施設の建設に着工する。 ・地域の漁業者は、前年度までに取得した漁獲物の脱血や神経締め等の技術を活用し、魚価向上に努める。いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協は、地域内仲買人等に、漁獲物の品質をPRする。 <p>〇地域水産物の情報発信と魚食普及・食育活動及び販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、引き続き「伊豆・いとう地魚王国」や伊東市・熱海市などの関係団体と共同で、水産物のPRや消費拡大、水産教室や料理教室による地産地消の取組を実施する。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、3漁協の水産物を各漁協の直売所で相互販売を本格的に実施するため、意見交換会を継続する。意見交換会で抽出した課題を精査し、本格的な相互販売開始に向けた体制整備を行う。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、3漁協の水産物を同時に取り扱うネット通販を継続する。販売効果を上げるため、3漁協の漁業者が漁業の紹介や水産物の調理法を紹介する動画コンテンツを作成し、随時配信する。また、運用のための意見交換会を継続する。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、熱海市とも協力し、サバすり身を熱海市内の高齢者施設にもPRするため、施設職員向け説明会を開催する。キンメダイについては、漁協直売所や干物店などで干物等に加工し販売できるよう買い付けを行うことで、買い支えにより魚価が極端に下がることを防ぎ、魚価の向上につなげる。直売所では、他地区の水産物も取り扱う。 <p>〇水産物の安定供給に向けた水産資源の管理・保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業の安定的な操業の実施のため、定置網漁業者は、クロマグロの入網時には混獲を回避するため放流を行うなど適切な資源管理を行う。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、県水産・海洋技術研究所等と連携し、漁業者等が食害生物の駆除を実施し、粗朶魚礁設置、マダイ、アワビ等の種苗放流、イセエビについて満月の前後の自主休漁や小型エビの再放流を引き続き行い、稚魚、貝、エビ類の資源を保護する。 ・いとう・大熱海・初島漁協の所属漁業者等は3年目までに実施した、カジメ等の移植の成果を検証して、必要に応じて方法の見直しを行い、まだ磯焼けの状態にある海域への移植を合同で実施する。 <p>〇中核的担い手の育成に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協及び漁業者は、漁業経営セーフティーネット構築事業による漁家経営の安定化、漁船リース事業・機器等導入事業、
--	---

	<p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業などの活用を推進し、漁業者の生産力の向上やコスト競争に耐えうる操業体制の確立を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊東・熱海広域水産業再生委員会は、当地域における意欲ある漁業者を中核的担い手として選定し、地域の漁業の維持・発展を図るため、地区水産業に関する研修会や若手漁業者への技術伝承会などを開催して漁業後継者の育成に努め、技術の向上、資源保護等の取組みを行う。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティネット構築事業 ・クロマグロ混獲回避活動支援のうち混獲回避取組支援事業 ・水産業競争力強化漁船導入支援事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ・水産業共同施設整備事業 ・水産イノベーション対策推進事業 ・水産業活性化プラン具体化等支援のための専門家派遣事業 ・水産物販売促進緊急対策事業 ・資源増大推進普及事業 ・水産業競争力強化緊急施設整備事業

5年目（令和8年度）

取組内容	<p>○操業効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協と定置網漁業者は、導入者が増加したユビキタス魚探の活用について定期的に意見交換会を実施し、先進機器をさらに効率的に開発するための情報交換を行う。 ・一本釣り漁業(キンメダイ立縄)における食害対策において、伊東地区、初島地区の漁業者は、2地区相互に波及させた対策手法について、効率的な運用のため意見交換を定期的実施する。 <p>○水産物の高付加価値化・流通活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協は、伊東魚市場の製氷・貯氷庫の施設整備を完了し、運用を開始する。伊東・熱海地域全体の水産関係基盤施設として、大熱海地区・初島地区の漁業者にも活用を促していく。 ・地域の漁業者は、漁獲物の脱血や神経締め等の技術の活用を継続し、魚価向上に努める。いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協は、地域内仲買人等に、漁獲物の品質PRを継続するとともに、その効果を把握する。 <p>○地域水産物の情報発信と魚食普及・食育活動及び販売力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、引き続き「伊豆・いとう地魚王国」や伊東市・熱海市の商工会や観光協会と共同で、伊東・熱海地域全体で水産
------	---

	<p>物のPRや消費拡大、水産教室や料理教室による地産地消の取組を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、3漁協の直売所における水産物の相互販売を本格的に開始する。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、3漁協の水産物を同時に取り扱うネット通販を継続する。漁業者が出演する動画配信や、運用のための意見交換会を継続し、改善への見直しを行いながら活動を行っていく。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、サバすり身の高齢者施設への納入を開始する。漁業者が高齢者施設を訪問し、漁業の紹介等を実施する。 <p>キンメダイについては、いとう漁協直売所や干物店などで干物等に加工し販売できるよう買い付けを行うことで、買い支えにより魚価が極端に下がることを防ぎ、魚価の向上につなげる。</p> <p>○水産物の安定供給に向けた水産資源の管理・保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業の安定的な操業の実施のため、定置網漁業者は、クロマグロの入網時には混獲を回避するため放流を行うなど適切な資源管理を行う。 ・いとう・大熱海・初島漁協と漁業者は、県水産・海洋技術研究所等と連携し、漁業者等が食害生物の駆除を実施し、粗朶魚礁設置、マダイ、アワビ等の種苗放流、イセエビについて満月の前後の自主休漁や小型エビの再放流を引き続き行い、稚魚、貝、エビ類の資源を保護する。 ・いとう・大熱海・初島漁協の所属漁業者等は4年目までに実施した、カジメ等の移植の成果を検証して、必要に応じて方法の見直しを行い、まだ磯焼けの状態にある海域への移植を合同で実施する。 <p>○中核的担い手の育成に関する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いとう漁協、大熱海漁協、初島漁協及び漁業者は、漁業経営セーフティーネット構築事業による漁家経営の安定化、漁船リース事業・機器等導入事業、水産業成長産業化沿岸地域創出事業などの活用を推進し、漁業者の生産力の向上やコスト競争に耐えうる操業体制の確立を目指す。 ・伊東・熱海広域水産業再生委員会は、当地域における意欲ある漁業者を中核的担い手として選定し、地域の漁業の維持・発展を図るため、地区水産業に関する研修会や若手漁業者への技術伝承会などを開催して漁業後継者の育成に努め、技術の向上、資源保護等の取組を行う。
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業経営セーフティーネット構築事業 ・クロマグロ混獲回避活動支援のうち混獲回避取組支援事業 ・水産業競争力強化漁船導入支援事業 ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 ・水産業共同施設整備事業

	<ul style="list-style-type: none"> ・水産イノベーション対策推進事業 ・水産業活性化プラン具体化等支援のための専門家派遣事業 ・水産物販売促進緊急対策事業 ・資源増大推進普及事業
--	--

(5) 関係機関との連携

<p>静岡県水産・海洋技術研究所による資源保護の調査研究・資源動向の予測などの取組を支援するとともに、同研究所と連携し食害生物の駆除を行う。</p>
--

(6) 他産業との連携

<p>市、農協、観光協会、商工会議所などと協力し、商品開発や地場製品のPRを行うとともに、食育推進団体や市栄養士、飲食店等からのレシピ提案や商工会議所等への地産地消、調理方法などの情報提供を行い、漁業体験、料理教室、市場内でのおさかな市などの開催などに取り組む。</p> <p>また、「伊豆・いとう地魚王国」加盟団体やその他の観光業や飲食業、流通業と連携することにより観光客の増加や新たな販路開拓などを旨す。</p> <p>県教育委員会や高齢者施設等と連携し、伊東市外の学校等の給食や施設内の食事メニューの提案や納入業者の紹介等を行い、販路及び取扱量増加を旨す。</p>

4 成果目標

(1) 成果目標の考え方

<p>水産物の品質管理・高付加価値化、販売力強化など、魚価向上に向けた取組を行うことから、魚価を指標とする。ただし、異なる漁獲物を持つ3地区の代表魚種を網羅するため、伊東地区の重要漁獲物であるキンメダイ、マイカ、熱海・初島地区の主要漁獲物であるイセエビ・サザエの4魚種を選定した。</p>
--

(2) 成果目標

地域内水揚 単価 キンメダイ	基準年	令和元年～令和2年度平均	: 1, 934円/kg
	目標年	令和8年度	: 2, 127円/kg
地域内水揚 単価 イセエビ	基準年	令和元年～令和2年度平均	: 4, 647円/kg
	目標年	令和8年度	: 5, 112円/kg
地域内水揚 単価 サザエ	基準年	令和元年～令和2年度平均	: 921円/kg
	目標年	令和8年度	: 1, 013円/kg
地域内水揚 単価 マイカ	基準年	令和元年～令和2年度平均	: 667円/kg
	目標年	令和8年度	: 733円/kg

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

基準年は、前期広域浜プランの実施年のうち、コロナ禍の影響を受け、単価が下落した令和元年、2年の地域内水揚から算出した。コロナ禍による単価の低迷からの脱却を図る。

目標年は、広域浜プランで取り組む高鮮度処理の普及、PR活動、ネット販売の拡大等での販路拡大等で、それぞれの水産物において、平均単価10%向上を目指す。

表 成果目標根拠数値

魚種	令和元年		令和2年		令和元年 単価	令和2年 単価	令和元～ 2年平均	令和8年 目標
	数量(kg)	金額(円)	数量(kg)	金額(円)				
キンメダイ	17,172	34,057,405	16,057	30,260,695	1,983	1,885	1,934	2,127
イセエビ	4,369	18,584,500	1,847	9,310,360	4,254	5,041	4,647	5,112
サザエ	17,641	15,195,022	6,169	6,047,987	861	980	921	1,013
マイカ	85,273	58,360,642	164,283	106,624,664	684	649	667	733

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティーネット構築事業	燃油高騰に対する自助対策として、漁業経営の安定化につなげる
クロマグロ混獲回避活動支援のうち混獲回避取組支援事業	定置網の安定的な操業に必要なクロマグロの混獲回避活動（放流活動）の支援
水産業競争力強化漁船導入支援事業	中古漁船等のリースにより、中核的漁業者の収益向上及び安全かつ健全な操業にむけて取組を支援
水産業成長産業化沿岸地域創出事業	収益性の向上と適切な資源管理を両立させる浜の構造改革に取り組むため、漁業者自らが策定した計画に基づき、沿岸漁村地域において必要な漁船、漁具等のリース方式による導入を支援
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	持続可能な収益性の高い操業体制を確立するため生産性の向上、省力、省コスト化に資する漁業用機器等の導入を行う漁業者を支援
水産業共同施設整備事業	せり売り場へ防鳥ネットを設ける事により鳥類からの被害を防ぎ、荷捌き施設の衛生管理レベルを向上させる
水産イノベーション対策推進事業	荷さばき施設の作業の効率化に資する機器や、一本つり漁業において食害生物駆除用漁具など整備する
水産業活性化プラン具体化等支援のための専門家派遣事業	製氷・貯氷庫の施設整備に向け専門家の派遣を依頼する

水産物販売促進緊急対策事業	指定のインターネット販売サイト（EC サイト）で水産物を販売した際の送料等を支援
資源増大推進普及事業	種苗放流による資源、水揚げ量増大
水産業競争力強化緊急施設整備事業	伊東魚市場の製氷・貯氷庫の施設整備。
未定	地域活性につなげる情報発信等による地産地消、魚食普及への取組・商品開発、加工施設・設備導入、急速冷凍機器、製氷冷凍施設、災害に強い漁村づくり磯焼け対策、藻場の保全への取組